

[話題提供] 琴川ダム湖における 2022 年度のコクチバス駆除結果

[要約] 本格的な駆除を始めて 3 年目となる 2022 年度はコクチバスの目視個体数、駆除個体数とも最小であった。3 カ年の駆除の効果が現れており生息個体数が減少していると考えられる。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・谷沢弘将

[分類] 研究・参考

[課題の要請元]

山梨県漁業協同組合連合会、峡東漁業協同組合、食糧花き水産課

[背景・ねらい]

2020 年度より始まった本格的な駆除調査により、5 月中旬から 7 月中旬までが効率的に産卵親魚を駆除できること、雌は全長約 20cm から成熟することなどを明らかにした。2022 年度もこれまでと同等の駆除圧をかけ、過去の駆除との比較検証を行った。

[成果の内容・特徴]

1. 2022 年度の潜水目視調査では 1 回で最大 20 個体のコクチバスを確認した。2020 年度は 104 個体、2021 年度は 42 個体であったことから大幅に減少した (図 1)。
2. 2022 年度は水中銃駆除を 21 回、刺網駆除を 18 回実施し、57 個体のコクチバスを駆除した。2020 年度は 640 個体、2021 年度は 324 個体であったことから駆除個体数は大幅に減少した。2020-2022 年度とも最も駆除個体数が多かったのは刺網 (2020, 547 個体、2021, 305 個体、2022, 52 個体) であり、駆除効率 (CPUE (駆除個体数/刺網枚数)) は図 2 のとおりであり、CPUE の平均は 2020, 1.42、2021, 0.58、2022, 0.13 と大幅に減少した。
3. 2022 年度は産卵床が 1 箇所確認され、浮上仔稚魚の駆除を行った。2020 年度は 7 箇所、2021 年度は 0 箇所であり、減少傾向である。2022 年度の再生産の影響は小さいと考えられるが、今後の生息個体数に与える影響は注視する必要がある。
4. 総駆除個体数が減少している事などから、駆除の努力量は適切と推察される。一方、駆除は長期化を見込み持続可能な駆除ができるよう労力を抑え効率化していく必要がある。

[成果の活用上の留意点]

1. 刺網等による駆除を行うためには原則として山梨県知事の許可が必要である。
2. 浅場 (水深 2m 程度) に設置する刺網でも日中の表層水温が 22℃以下の場合は、イワナ、アマゴの混獲は避けられない。

[期待される効果]

駆除方法の効率化により、コクチバスによる漁業被害を低減することができる。

[具体的データ]

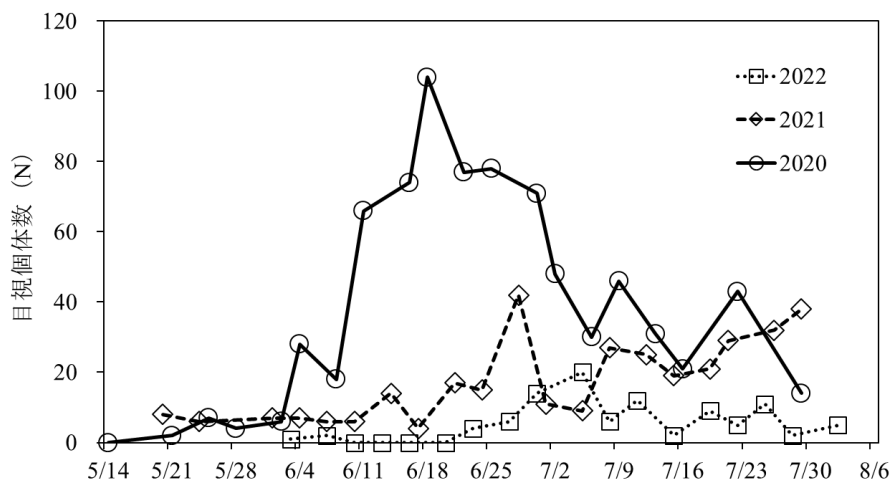


図1 2020-2022年度の潜水調査によるコクチバス目視個体数

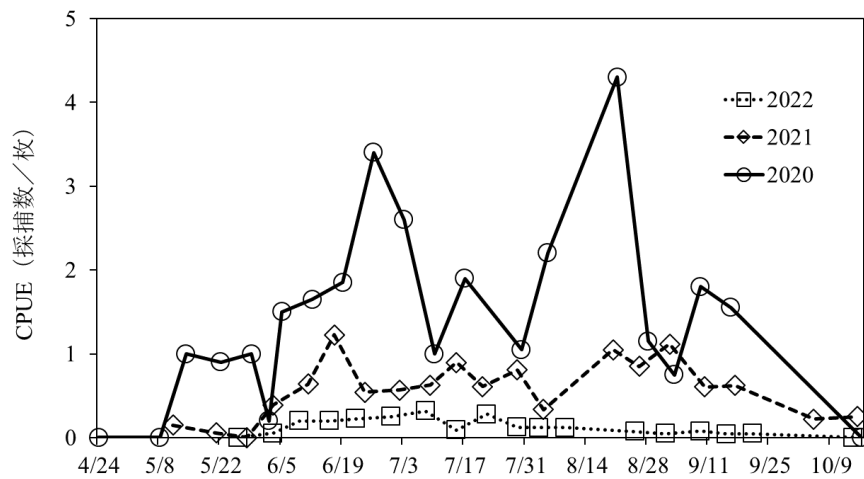


図2 2020-2022年度の刺網1枚あたりのコクチバス採捕数

[その他]

研究課題名：コクチバス効率的駆除技術の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2021年度～（プレ研究 2019、2020年度）
 研究担当者：谷沢弘将、三浦正之